| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 仲間　勇栄 | 所　属 | 亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | 森林政策学、森の文化史の授業のスキルアップを目指す。大学院生と卒論学生対象のゼミを充実させて、学生の基礎専門知識と問題意識を高める。さらにフィールド調査で研究手法、データの整理、分析、まとめ方のノウハウについて指導する。 | 0.30 | 授業では、学生の評価をもとに最新の情報を取り入れ、授業手法のスキルアップを行った。研究室の自主ゼミを通じて、学生の専門知識や問題意識の向上に努めた。国頭村の水源涵養林や林道法面の植生調査を行い、そのデータ整理・分析、まとめ方などについて指導した。連大学生の学位取得の目途がついた。 |
| 研究 | 0.30 | 研究室で進めている水源涵養林と林道法面の植生に関するレフリー論文の完成を目指す。林政八書の英語訳の論文を１編完成する。国頭村安田集落の林野利用の調査を学生と進める。沖縄林業論の著書と、蔡温シンポジウムの資料集成の本を発刊する。 | 0.30 | 国頭村における水源涵養林と林道法面の植生調査のデータを整理し論文を作成中である。林政八書の英語版の論文を完成させた。大学院生と国頭村安田集落の土地利用の調査を行った。「沖縄林業論」の著書は準備中であるが、「蔡温シンポジウムの資料集成」の本は発刊できた。 |
| 社会貢献 | 0.20 | 沖縄県の森林審議会長として、その職責を実行する。10月、科研の社会還元シンポジウムで報告する。その他、講演の依頼があれば可能な限り対応する。 | 0.20 | 沖縄県森林審議会の会長として、昨年12月の委員会の議長を務めた。昨年10月6日の科研のシンポジウム（県立博物館）で報告した。八重瀬町（平12年12月31日）、コーポおきなわ（平13年1月27日）で、「フクギ屋敷林と集落景観」の題で講演した。平25年2月11、22日、今帰仁村でフクギの講演予定である。 |
| 管理運営 | 0.10 | 学部、全学の与えられた委員の職責を果たす。 | 0.10 | 農学部学術報告の委員長として原稿のとりまとめ・校正業務を行った。その他、教授会・学科会議に出席し職務を果たした。 |
| 進路指導 | 0.10 | 年次指導の学生については懇談会を通して、適宜指導する。研究室内の学生については、その都度、学業や就職の進捗状況などについて確認し、情報の提供や個人に応じた指導を行う。 | 0.10 | 学生の学業や就職については、適宜、指導し、その結果、１人の学生は、連大に進学、もう1人は、就職の目途がついた。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 内藤　重之 | 所　属 | 農学部 | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.42 | 学部担当科目については資料を配布するとともに、ビデオ視聴や現地見学等を取り入れて理解しやすい講義を行う。授業終了時に学生から質問と感想を提出してもらい授業の改善に努める。大学院担当科目については意見交換を行い受講生の問題関心に沿った授業を行う。また、都市農村交流等に関する研究成果を授業に反映させる。 | 0.50 | 今年度は担当授業数が増え、授業の準備と実施に多くの時間を費やしたが、学部担当科目、大学院担当科目ともに目標を達成できた。学生の感想等を参考にしながら今後さらに授業を充実させていきたい。 |
| 研究 | 0.42 | 科研費の研究代表1課題、研究分担2課題および公募研究の調査研究を遂行するとともに、研究成果を学会において報告する。また、日本農業市場学会の理事、食農資源経済学会の理事兼地区幹事、沖縄農業経済学会の理事兼事務局、農業理論研究会の事務局としての役割をそれぞれ果たす。 | 0.42 | 科研費および受託研究の調査研究を計画どおり遂行できた。その研究成果を日本農業市場学会と沖縄農業経済学会において発表した。さらに、各学会や研究会の役員等としての役割を果たすなど、目標を達成できた。 |
| 社会貢献 | 0.06 | 沖縄県卸売市場審議会の会長、沖縄県中央卸売市場取引委員会の委員長、沖縄県有機農業推進協議会および沖縄県経営構造対策推進協議会の委員、内閣府沖縄総合事務局の委員として、それぞれ役割を果たす。 | 0.03 | 開催されなかった委員会もあるが、目標どおり各委員会や協議会等の委員としての役割を果たすことができたと考えている。 |
| 管理運営 | 0.08 | 全学的な委員会である琉球大学情報公開委員会、社会系科目企画小委員会の委員として、また農学部の教育委員会、FD委員会、地域貢献支援委員会、安全衛生委員会、亜熱帯フィールド科学教育研究センター運営委員会、環境・交通・施設等委員会の委員として、それぞれ責務を果たす。 | 0.04 | 授業の関係で出席できなかった委員会もあったが、目標どおり責務を果たせたと考えている。 |
| 進路指導 | 0.02 | 研究室の学生や担当科目の受講生等に対して進路（進学・就職）についてのアドバイスを積極的に行う。 | 0.01 | 研究室の学生や担当科目の受講生に対して進路についてのアドバイスを積極的に行った。ただし、今年度はまだ研究室の4年次に就職の内定していない学生がおり、引き続き指導を行っていきたい。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 木島　真志 | 所　属 | 農学部亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 准教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | ●セミナー開催や授業を活用し，広い視野・大局的な視野に基づく判断能力・思考能力を養うための環境を整備<br>●授業やセミナーの企画開催等を通して，森林資源管理・利用における最新の研究を紹介するとともに，森林資源管理経営の重要性・面白さを伝える.<br>●留学希望者の支援及び，留学生の支援を積極的に行う. | 0.35 | 統計数理研究所の研究員のPeter Surový氏をお迎えして，第3回森林管理セミナー2012年7月10日（火曜日）10:00～を琉球大学農学部4階453号室にて開催した．また，2012年11月16日（金曜日）にも同氏が共同研究で来沖された際にゼミで研究発表をして頂いた．博士課程の留学生の中間報告会に向けて，準備等積極的に支援した. |
| 研究 | 0.30 | ●学会誌への投稿，学会発表を積極的に行う.<br>●国際的な共同研究を積極的に進める.<br>●他大学・他研究機関との共同研究を積極的に進める. | 0.25 | 論文については国際誌1本，国内誌1本が受理/出版された．本年度は，ソウル大学（韓国）と展開してきた国際的共同研究の研究の最終年で，ソウル大にて国際シンポジウムを開催・参加発表した．また，統計数理研究所との共同研究課題2件を行った. |
| 社会貢献 | 0.20 | ●学外の審議会等へ参加し，適切な情報交換を行う.<br>●国内外の学会・研究会の運営・参加を積極的に行う. | 0.20 | 沖縄県の林業普及委員会および$CO_2$森林吸収量認証制度検討委員会へ参加した．また．3月13-14日にかけて，福島で開催される国際シンポジウムFORMATH IWAKI 2013の運営委員として準備している．さらに，国際誌（Journal of Environmental Management）の査読1件，国内誌の査読2件(Journal of Forest Planning, 林学会誌)を行った. |
| 管理運営 | 0.10 | ●予算委員としての責務を果たす.<br>●広報委員として，学外に琉大農学部の魅力をアピールする.<br>●その他委員としての責務を果たす. | 0.10 | 広報委員として，オープンキャンパスの運営に積極的に関わった．その他委員としての責務を果たした. |
| 進路指導 | 0.10 | ●大学院進学者に対して，試験対策や，希望する研究室（他大学・留学も含む）についてアドバイス等を行う.<br>●就職希望者に対して，研究室卒業生との情報交換等，就職活動が行いやすい環境を整備する. | 0.10 | 研究室の4年生4名が就職した．まだ，4年次に就職が内定していない学生がおり，引き続き，指導を行う予定である. |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 安谷屋信一 | 所　属 | 亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.20 | 植物開発学，蔬菜園芸学等の講義内容の見直しを行う。 | 0.00 | 植物開発学および蔬菜園芸学の講義内容を見直し新たな資料を加えた．また，鹿児島連合体学院の科目（生物生産科学特論）の講義内容を新たに作成した． |
| 研究 | 0.30 | 論文を投稿する。Journal of Applied Horticultureおよび園芸学会欧文誌の編集委員として務める。 | 0.00 | 論文2報が国際学術雑誌へ掲載された．また，不採択投稿原稿を再考し投稿準備中である．さらに，園芸学会欧文誌の編集委員として投稿論文審査に携わった． |
| 社会貢献 | 0.10 | 沖縄県農政審議会委員として務める。外部資金の確保に努める。 | 0.00 | 沖縄県農政審議会委員として沖縄県の農業政策にあり方に関わった．また，また，一般財団法人　沖縄美ら島財団総合研究センターにおける遺伝子組み換え安全委員会の委員として活動した． |
| 管理運営 | 0.20 | 各種委員として務める。 | 0.00 | 各種各種委員として活動した． |
| 進路指導 | 0.20 | 学生との懇談会や卒論指導を介し，学生の進路相談に応じる。 | 0.00 | 学生との懇談会や卒論指導を介し，学生の進路相談に応じた．指導した学生はすべて進学または就職が決定した． |
| | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 0.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 本村　恵二 | 所　属 | 亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | 植物開発学に関する科目として学部で育種学入門、基礎遺伝学Ⅱ、外国文献購読講義を行う。また卒業論文の研究指導を行う。大学院において、農学研究の方法、育種学特論などの講義ならびに研究指導を行う。 | 0.00 | 学部及び大学院の講義、卒業論文および修士論文の研究指導が目標設定どおりできた。 |
| 研究 | 0.30 | 耐乾性、耐暑生ネ品種育成に向けた基礎研究を行う。カンナおよびクワンアソウの利用に関する研究を行う。 | 0.00 | イネにおいて耐乾性及び耐暑性系統のスクリーニングができた。クワンソウ類のオキシピナタニン量の系統間差を調査し、またカンナの栽培に関する実験を行い利用化に向けた取り組みを進めた。 |
| 社会貢献 | 0.19 | 県内の農家や農業団体を訪ね、農業に関する意見交換を行う。 | 0.00 | 専門的見地からの講演を3回、意見交換会を2回行った。 |
| 管理運営 | 0.20 | 学内各種委員会における担当委員の責務を果たす。 | 0.00 | 全学および学部の各種委員会に参加し、その責務を果たした。 |
| 進路指導 | 0.01 | 学生の進路相談に応じ、可能な協力をおこなう。 | 0.00 | 学生の就職相談、面接の在り方、予想される質問内容の検討、推薦文の作成など学生の進路指導を進めた。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 0.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 嬉野健次 | 所　属 | 農学部・亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 准教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | ・担当講義について，学生が理解しやすいように写真をもちいたりして資料の作成を工夫する．学生が本実験の意義を理解したかを判断するため毎回小テストを課す． | 0.30 | ・・・作成した資料に基づいて講義を行った．また，学生が講義および実験実習の内容について，どのくらい理解したかを把握するため，講義では，毎回小試験を行い，実験については，レポート課題を出し，習熟度を把握した． |
| 研究 | 0.30 | ・本年度，科学研究費で採択されたテーマについて，実験を実施する．また，その内容については，学会発表を行う．また，九州大学との共同研究についても実験を行う． | 0.30 | ・・・科研費で採択された研究内容について，園芸学会秋季大会で発表を行った．また，関連する内容について，論文を投稿中である．また，九州大学農学部園芸学研究室との共同研究（ツツジ花弁のカロテノイド分析）について，研究の遂行および打ち合わせを行った． |
| 社会貢献 | 0.10 | ・園芸学会雑誌（英文誌）の編集委員を担当する．新聞社などからの植物に関する問い合わせに対応する． | 0.10 | ・・・園芸学会雑誌（英文誌）の編集委員として，論文審査および編集作業を担当した． |
| 管理運営 | 0.20 | ・農学部各種委員会のうち，担当した委員の任務を遂行する． | 0.20 | ・・・農学部各種委員会のうち，担当している委員の業務を行った．４年次のクラス担任として，クラス懇談会を行った． |
| 進路指導 | 0.10 | ・研究室の学生の進路の相談にのる． | 0.10 | ・・・ゼミなどの時間を通じ，学生の進路指導の相談にのった．また，住職センターの情報を随時指導学生に提供した． |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 仲村 一郎 | 所　属 | 農学部 亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 助教 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.25 | 学部１１科目（うち分担3科目）を担当し、学生の学力向上を目指す。 | 0.25 | 担当科目を通して、学部学生に対する教育は十分に行った。 |
| 研究 | 0.30 | 学生と共に研究活動を行い、得られた結果については，学会で発表する．また，研究論文の採択を目指す。 | 0.30 | 本年度は、共同研究を含め5件の学会発表に関わった。また共著論文2報が受理された。 |
| 社会貢献 | 0.10 | オープンキャンパスなどを通した広報活動と同時に研究成果を公表する | 0.10 | 目標に従って活動した。 |
| 管理運営 | 0.15 | 予算委員、進路指導委員、エコアクション21（行動計画）委員などの委員会および亜熱帯フィールド科学教育センター兼務教員として運営活動に積極的に参加する。 | 0.15 | 委員会などの職務を全うした。 |
| 進路指導 | 0.20 | 年次懇談会を開催し、学生の履修状況、就職活動等の進路指導をする。また、研究室配属の学生に対しては、就職や進学を促す。 | 0.20 | 年次指導教員としての職務を全うした。また、学生生活に関する相談や進路相談などで訪問する学生（他学科を含む）への対応を適切に行った。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 佐野文子 | 所　属 | 農学部亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.35 | 家畜衛生学および微生物学の教育を通じて、食の安全、畜産従事者の健康などについての意識の向上を目標とした教育を行う。<br>基本から丁寧に説明しわかりやすい講義を心がける。学生が楽しみながら興味を引き出す工夫をする。 | 0.35 | 家畜衛生学および微生物学の教育を通じて、食の安全、畜産従事者の健康などについての意識の向上を目標とした教育およびその方法として基本から丁寧に説明しわかりやすい講義を心がけ，学生が楽しみながら興味を引き出す工夫も概ね遂行できた. |
| 研究 | 0.25 | 家畜衛生学領域を意識した人獣共通感染症、特に真菌を原因菌とする感染症に関する研究およびその成果発表を国内外の研究者との共同研究を推進する。 | 0.25 | 家畜衛生学領域を意識した人獣共通感染症、特に真菌を原因菌とする感染症に関する研究およびその成果発表、国内外の研究者との共同研究を推進については，おおむね遂行できた. |
| 社会貢献 | 0.20 | 獣医師としての感染症対策などに関する啓発活動および医師、獣医師などからの検体の診断サービスをおこなう。日本菌学会、日本医真菌学会での評議員として学会活動に貢献する。 獣医師会へ感染症対策へのアドバイスを行う。 | 0.20 | 獣医師としての感染症対策などに関する啓発活動および医師、獣医師などからの検体の診断サービスをおこなうことについてはほぼ遂行できた. 日本菌学会、日本医真菌学会での評議員として学会活動に貢献すること， 千葉県獣医師会での来年度の全国大会の準備に積極的に参加した. |
| 管理運営 | 0.10 | 教室運営および大学内の各種役割への積極的に参加する。特に教室に所属する学生の安全への配慮を重視する。 | 0.10 | 教室運営および大学内の各種役割への積極的に参加することとしては，入学試験試験監督，全学の実験動物委員会への委員としての参加により概ね遂行できた。 |
| 進路指導 | 0.10 | 動物取り扱い業務を含む関連領域への就職活動アドバイスを行う。<br>研究者志向の学生には研究の魅力と大学院生活およびその後の進路概略について、希望を持って進めるようなアドバイスを行う。 | 0.10 | 動物取り扱い業務を含む関連領域への就職活動に、希望を持って進めるようなアドバイスを行うことはおおむね遂行できた. |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙1）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 川本　康博 | 所　属 | 農学部　亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.20 | **前期**：学部担当科目（循環畜産学[4コマ分担]，家畜環境管理学（７コマ担当），熱帯草地学実験，卒業論文I・II），**後期**：熱帯草地学，草地生産管理学，人口と食糧[3コマ分担]）を担当すると共に，研究科担当科目（熱帯草地学特論，特別研究，亜熱帯農学特別演習），連合大学院科目（動物資源生産科学特別講義[2コマ分担]）についてシラバスに沿って講義を行う。 | 0.00 | ･･･担当した科目については，学部，研究科（農学研究科，連合農学研究科）の科目共に予定された内容について，出張等で休講にした分をレポートで代替したものの，概ねシラバスに記載した通りの講義を実施した。 |
| 研究 | 0.20 | 大学院修士課程，並びに博士課程の学生と共にそれぞれの研究内容に沿った２～３の研究論文の採択を目指す。外部資金（1～2事業）を獲得し，関連組織との共同研究を継続・開発し，農業振興につながる技術の研究開発に努める。 | 0.00 | ･･･博士課程学生の指導の結果，受理論文を含め研究論文8報，外部資金による研究は1事業のみの獲得であったが，次年度に向けた新規事業の調整を行った。学生の卒業論文，修士論文，博士論文に係わる研究を協力して実施した。 |
| 社会貢献 | 0.15 | 沖縄県，県畜産振興公社，沖縄総合事務局から依頼される推進会議並びに調査等の兼業を行うと共に，県内農家･農業団体に対し，これまでの研究成果等の普及を推進し，産学連携事業を進めることによって社会貢献を行う。また，国際協力機構の研修コース（３つの研修プログラム）と，鹿児島大学の非常勤講師を務める。 | 0.00 | ･･･沖縄県農林水産部の業務のうちの一部を兼業として行ったが，例年と比べて少なかった。国際協力機構から依頼された研修コースの講義を，石垣市，帯広畜産大学，琉球大学農学部，家畜改良センターで実施した。また，鹿児島大学の非常勤講師を務めた。 |
| 管理運営 | 0.40 | 農学部長としての職責上の業務を遂行する。併せて，全学，学部の関連委員を務める。 | 0.00 | ･･･職責上の委員会には一部の代理出席を除き，全て出席した。学部の運営管理に努めた。また，理事から特に依頼された数件の委員会業務（委員，委員長）を行った。 |
| 進路指導 | 0.05 | インターンシップ（現業実習）を海外の大学等とも連携して行うようなプログラムを作成し，手続きを調整する。学部，農学研究科（琉球大学，鹿児島大学連合）の卒業・修了生の就職率向上に努める。 | 0.00 | ･･･学生のキャリア向上のために，学部のインターンシップを海外も含め推進した。研究科では，国際農学プログラムでのインターンシップ等を推進した。学部，農学研究科（琉球大学，鹿児島大学連合）の学生の就職率向上に務めたが，十分な成果が得られなかった。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ･ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>･記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>･診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 0.00 | ･ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 伊村嘉美 | 所　属 | 亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 准教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | 各科目の内容の改訂を続ける．今年度は，特に，家畜飼養管理学実験の内容の充実を図る． | 0.00 | 飼料の消化率測定方法の項目内容を充実した． |
| 研究 | 0.20 | 飼料米の栄養価の評価を継続する．今年度は，ニワトリにおける消化性改善方法の比較を行う． | 0.00 | 飼料米の物理的処理方法に関する検討として，ヒナを用いた実証試験を行った．ヒナにおいては成鶏と異なり，ンパク質の消化性の改善が必要であることが明らかにされた． |
| 社会貢献 | 0.15 | JICAによる外国人畜産関係者向け「環境に配慮した草地畜産開発」コースの石垣島における講義及び実習を企画・実施する．また，日本暖地畜産学会の事務局の業務を滞りなく実施する． | 0.00 | JICA研修および日本暖地畜産学会の運営ともに，滞りなく実施した． |
| 管理運営 | 0.20 | 各種委員として，管理運営活動に積極的に参画する．特に，全学URGCC委員として，このカリキュラムの充実に努める． | 0.00 | 各種委員会に、ほぼ出席した．URGCCについては，目標を達成するためのカリキュラム内容の点検を実施した． |
| 進路指導 | 0.15 | 研究室配属の4年生について，早期進路希望を聴取し，就職あるいは | 0.00 | 4年生は就職が内定した．指導教員を受け持っている3年生に対しては、随時情報提供を行っているところである． |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 0.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

（別紙1　表面）

| 4月30日まで<br>シート提出→評価者 | | 5月11日まで<br>シート提出→部局等長 | | 5月22日まで<br>内容調整（評価者・当該教員間） | | 5月29日まで<br>部局等内とりまとめ | | 6月5日まで<br>シート提出→評価室 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

# 平成24年度　目標管理及び自己点検シート（表面）

| 所　属 | （学部等）　農学部 | （研究科等）　亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 准教授 |
|---|---|---|---|---|
| 名　前 | 平川　守彦 | その他 | | |

| 領域 | 業務ウェイト | 年度目標 | 年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | 学部担当科目（循環畜産学、家畜飼育学、外国文献購読、生物学概論、家畜行動管理学、家畜福祉論，動植物人間関係学）を担当し、他学科、他講座の学生にもわかりやすい講義を行う。大学院では、家畜管理学特論を担当し、活発な討議のできる講義にする。 | 学部担当科目（循環畜産学、家畜飼育学、外国文献購読、生物学概論、家畜行動管理学、家畜福祉論，動植物人間関係学）を担当し、他学部、他学科の学生にもわかりやすい講義を行った。大学院では、家畜管理学特論を担当し、活発な討議のできる講義を行った。 |
| 研究 | 0.20 | 3，4年次学生および琉大馬術部の部員と一緒に協力しながら、与那国馬のホースセラピーと育成したセラピーヤギによる癒し効果に関する基礎研究を行い、学会誌へ投降する。 | ○ヤギの分娩行動に関する研究を行い、ブタ同様に巣作り行動を行うことを発見した。　○沖縄の文化である闘牛に関するアンケート調査を行った。その結果、80%のヒトが闘牛を伝統文化として認識していること、飼育者はウシは家族のような存在だということがわかった。 |
| 社会貢献 | 0.15 | 外部からの要請や相談があれば積極的に関わりたい。 | ○茨城県牛久高等学校の学生9名を対象に模擬講義をおこなった。<br>○沖縄総合事務局消費・安全課から第三者評価会委員の依頼を受けて、県の事業に対する評価を行った。 |
| 管理運営 | 0.20 | 学部においては学生指導主任，将来計画委員，教育委員，広報委員として，また，全学においては学生指導委員，ハラスメント防止対策委員，ハラスメント指針見直委員，ハラスメント相談窓口担当者として積極的に活動を行う。 | 学部においては学生指導主任，将来計画委員，教育委員，広報委員として，また，全学においては学生生活委員，学生支援・指導専門委員、ハラスメント防止対策委員，ハラスメント指針見直委員，ハラスメント相談窓口担当者として積極的に活動を行った。 |
| 進路指導 | 0.15 | 4年次学生に就職指導を行う。 | 4年次学生に就職指導を行った。 |
| | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | 当該シート（表）の公開を希望しない場合には、その旨右記空欄に記載してください。 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

| 名　前 | 芝　正己 | 所　属 | 農学部・亜熱帯地域農学科 | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.32 | ・教育活動の主体は、フィールド科学教育研究センターの実習教育メニューである「基礎フィールド実習：分担」、「フィールド実習Ⅲ：分担」、「亜熱帯林体験実習：分担」、学科（亜熱帯地域農学）構成コースの農林共生学分野の提供科目である「樹木社会学：単独」、「地域里山林論：単独」、「森林計測学：分担」、「外書文献講読：分担」、その他、学科共通提供科目の「動植物人間関係学：分担」、学部共通科目の「キャリア実習」等に基づく。実習・講義内容の充実を目標に、教材や文献資料の編集や収集方式、対話型の質疑応答の講義・実習、英語表現・専門用語を多用したバイリンガル講義・実習等を試みる。また、前年度の課題点の改善にも努力する。 | 0.00 | ・フィールドセンター担当の各実習に関しては、実施方法、実習内容、評価法など、いずれもシラバスに沿った形で行えた。課題であった「基礎フィールド実習：実習学生が多いため、説明や作業場所の移動、道具を使った実地作業面で何らかの補助的対応が必要である」も、マイクロフォンを使った説明、TAを使った分担作業で改善できた。座学の講義に関しては、配布資料の内容、ビデオを使った視聴覚講義などに工夫した結果、学生の授業評価もほぼ満足できるものであった。なお、実習の準備や資料の作成等についての分担教員や補助技術職員との事前・事後の打合せ等、特に問題となる点は見られなかった。学科長という立場もあり、年次指導教員としての学生指導・助言等については十分に対応できたと考える。学生指導は重要な業務部分であり時間外でも対応できるように今後も工夫に努めたい。研究室所属の2名の学部学生及び連合大学院博士課程学生（1年次）については、学会発表や論文投稿の指導を行った。上記の通り、教育面については概ね計画通りに遂行できた評価される。 |
| 研究 | 0.28 | ・主要な学会・研究集会の対象は、国内が日本森林学会（同全国大会・支部大会）、森林利用学会、森林計画学会、亜熱帯森林・林業研究会「、海外が COFE（米国）、IUFRO（pオーストリア）等である。国内学会等については出来るだけ参加発表を行い、特に重要な論文については関係学会誌への投稿を準備する。海外の学会等については、特に役員担当部分のもについては外部資金等による財政支援を前提に参加が可能となるよう努力する。過去の交流実績大学との継続的な関係構築に努める。米国 COFE 会員、FSC（森林管理協議会：本部ドイツ） 国際会員としての海外学会活動を継続して行う。科研費や民間の研究助成など外部資金の獲得に積極的に務める。 | 0.00 | ・主要な国内学会である日本森林学会、同九州支部大会には参加発表した。また、県内の研究会（亜熱帯森林・林業研究会）にも口頭発表を行った。所属学生に対する研究指導として学部4年生（1名）及び2名の留学生の学会参加発表を指導した。なお、国際会員としてこれまで参加していた米国での専門会議（COFE）、IUFRO会議（ヨーロッパ開催国）には時間的、経済的理由から参加できなかった。学内外の役員会議や集会、また講義等の関係から、今後も厳しい状況であることが考えられる。なお、海外学会活動については、役員等引き続き継続して任に当たっている。外部資金の獲得については、応募したがいずれも不採択に終った。以上、学生の研究指導部分はほぼ良好な結果であったが、国際会議や共同研究等は必ずしも満足できる結果であるいは言えなかった。 |
| 社会貢献 | 0.14 | ・学外の審議会、委員会のメンバーとして、沖縄県関係では、「沖縄都市緑化実行委員会：研究発表審査委員」、「西表島森林生態系保護地域設置委員会委員：九州森林管理局」、県外では、「NPO法人森林管理協議会Forsta理事：東京」、「（財）阪本奨学会京都大学理事：京都府」等、海外では「FSC 国際委員（北半球・社会部門）」、「IJFE（国際林業工学学会誌）国際編集員」等で活動しており、今後も引き続き積極的に関与していく。学外の小中高校生や一般の社会人を対象としたフィールド科学教育研究センター主催・協賛のイベント等（公開講座、オープンキャンパス、ワークショップ）への積極的な参加。その他の主要な学外での社会連携活動として、わが国での「FSC森林認証制度」の普及に1999年から係わって来ており、国内認証機関の審査委員、ピアレビュー委員として引き続き助言する。 | 0.00 | ・学内外の審議会、委員会等については、沖縄県や林野庁の継続・新規役員として4つ以上を担当し、講演会やシンポジウムでの基調講演・パネラーを務めた。また、他大学の理事、国際NPOの委員等もその任を継続中である。農学部やフィールドセンター参画の各イベントにも主催メンバーとして参加した。また、農学部地域貢献支援委員会の委員長として、沖縄県農林水産部及び名護市との共催により地域貢献シンポジウムを指揮した。その他、民間団体依頼の講演等のボランティア活動も行った。以上、社会貢献領域については、ほぼ予定した通りの成果が上げられた。 |
| 管理運営 | 0.14 | ・センターにおける諸管理運営業務（センター次長、全国演習林協議会理事校：林長職掌）について、センター長を補佐して積極的に関与する。学科長を含む各種委員会メンバーとしての役割を積極的に果たす。なお、該当委員会は、「自己点検委員会：委員」、「　教育委員会：委員」、「進路指導委員会：委員」、「研究圃場運営委員会：委員」、「地域貢献支援委員会：委員長」、「中期目標・中期計画推進会議：委員」である。 | 0.00 | ・センター次長として、全国演習林協議会をはじめ関係する管理運営業については、センター長を補佐して積極的に関与した。　また、学科長を含む農学部の各種委員会のメンバーとしてその役割を分担実行した。ただし、与那フィールドの管理運営業務については、当該施設が遠隔地に所在することもあり、学科長業務との関係で現地に出向いての直接の指導等が十分に行えなかった。この点については引き続き検討事項である。以上、センターの管理運営については、与那フィールド部分について若干の課題が残されていると考えられる。 |
| 進路指導 | 0.12 | ・年次指導教員のメンバーとして、年次研修をはじめとする行事の企画実行に積極的に関与する。学生の進路指導として、就職希望の学生への県内外の就職環境の情報提供や活動への助言を行う。博士後期課程（鹿児島連合大学院）在学中の留学生への積極的な教育指導を行う。就職支援のための具体的取組を検討して行く。 | 0.00 | ・亜熱帯地域農学科全般の学生に対する就学、進学や就職活動・キャリア実習等をはじめとする一連の進路指導を、学科長として学務担当窓口と協力して行った。また、2年次指導教員メンバーとして研究室分属や就職・進学等の進路相談等に積極的に関わった。本土で開催された学会や集会の合間に、民間企業を訪れ、学生のための就活情報の収集を行った。さらに、民間企業のトップを招聘した特別講演会を開催して学生の就職環境の改善に努めた。研究室学生に対してゼミを通して定期的に進路指導を行った。以上、進路指導に関する一連の活動はほぼ満足できる結果であった。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 0.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 玉城　政信 | 所　属 | フィールド科学教育研究センター | 職　名 | 教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | 学部担当科目（畜産共生技術論、フィールド実習Ⅱ、基礎フィールド実習1～3組および卒業論文など）を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義を実施する。特に実習では農業の基礎を理解できるように務める。 | 0.30 | 学部教育に関しては、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の特性を考慮した講義ができた。特に実習では農業の初歩である「鍬」、「鎌」「牛とのふれあい」を取り入れ理解させ得た。問題点が出てくれば改善を行う。 |
| 研究 | 0.10 | 沖縄の地域特性を踏まえた実社会で利用可能な研究開発および調査に努め、その成果を学会誌へ投稿する。 | 0.10 | 「泡盛もろみ酢粕の黒毛和種子牛飼料としての利用」を日本暖地畜産学会に投稿し、掲載が決定された。 |
| 社会貢献 | 0.10 | 1)日本暖地畜産学会運営へ積極的に取り組む。<br>2)沖縄畜産研究会の活動、研究会の開催に取り組む。<br>3)指導機関と共同で研究成果を普及・応用し、社会貢献を行う。<br>4)地元、沖縄県の産業振興に貢献する。 | 0.15 | 日本暖地畜産学会、沖縄畜産研究会のメンバーとして取り組んだ。各機関が開催する畜産関係の講習会に積極的に参加し、講演活動を実施した。 |
| 管理運営 | 0.45 | 1)フィールド科学教育研究センターの運営を効率的に実施する。<br>2)各種委員会の活動を積極的に行う。 | 0.38 | フィールド科学教育研究センターの運営で、予算管理、放牧場整備、のり面管理及びセンター内整備を行った。各員会へは、他活動との時間割振りの関係で完全な出席はできなかったが、可能な限り出席し貢献した。 |
| 進路指導 | 0.05 | 就職支援のために県内畜産関係企業等への見学を積極的に行う。なお、進路指導についても対応する。 | 0.07 | 学生をJA、関係団体及び農家等の調査や見学を通してバックアップした。2年次指導教員としての学生からの相談が増してきて、積極的に対応した。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | モハメド　アムザド　ホサイン | 所　属 | 亜熱帯フィールド科学教育研究センター | 職　名 | 准教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.40 | 学部担当科目(基礎フィールド実習1～3組、外国文献講読および卒業論文)と大学院担当科目（亜熱帯農学特別演習、栽培実践学特論、熱帯生物資源生産学および応用作物栽培育種学）を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義を実施する。特に実習では農業の基礎を理解できるように務める。 | 0.35 | 学部担当科目(基礎フィールド実習1～3組と大学院担当科目（亜熱帯農学特別演習、栽培実践学特論、熱帯生物資源生産学）を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義を実施しました。特に実習では農業の基礎を理解できるように務めました。 |
| 研究 | 0.30 | 熱帯・亜熱帯地域における環境保全型植物栽培技術に関する研究の成果を国内および国際学会等に発表および投稿する。 | 0.30 | 熱帯・亜熱帯地域における環境保全型植物栽培技術に関する研究を行ないその成果として国内学会で4件、国際学会で2件の発表行なった。さらに農学部学術報告に1報掲載され、学会誌に4報を投稿し、現在１報が掲載されました。 |
| 社会貢献 | 0.15 | (1) 地域の農家へのウコン栽培技術の助言等を行う。<br>(2)地域企業への高品質ウコンについての提案をする。 | 0.15 | (1) 名護市内、中城村の農家へのウコン栽培技術の助言等をしました。<br>(2)沖縄教育出版、しゃりや、琉球バイオリソース、沖縄ゴールデンファーマなどの地域企業への高品質ウコンについての提案をしました。 |
| 管理運営 | 0.15 | (1)フィールド科学教育研究センターの運営を効率的に実施する。<br>(2)各種委員会の活動を積極的に行う。 | 0.15 | (1)フィールド科学教育研究センターの運営を効率的に実施しました。<br>(2)代議会、極低温センター運営委員会の活動を積極的に行いました。 |
| 進路指導 | 0.00 | | 0.05 | 本格的に教育に携わった1年目なので、手探り状態だった。今後勉強して、積極的に指導をしたい。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 赤嶺　光 | 所　属 | 農学部亜熱帯フィールド科学教育研究センター | 職　名 | 准教授 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.35 | 1)学部教育における実習2科目（延べ4組）および講義4科目（うちコマ持ち2科目）を担当する。2)実習教材として秋作の果菜類を導入する。3)卒業論文指導に取り組む。4)年次指導教員としてコース分けや修学指導にあたる。 | 0.40 | 1)実習2科目（延べ4組）、前学期講義2科目、後学期講義5科目（うちコマ持ち2科目）、大学院2科目を担当した。2)園芸の実習教材として冬秋季用のニガウリを初導入した。3)卒論生2名、修士1年次1名、博士課程1名（副指導教員）を指導した。4)2年次指導教員として懇談会およびコース配属を担当した。 |
| 研究 | 0.20 | 1）連大学生の研究成果を投稿論文へと指導すると共に自身の研究成果も投稿する。2）園芸福祉に関する研究を推進する。3）日本芝草学会の評議員として学会活動を推進する。 | 0.15 | 1)連大学生の論文作成を指導し年度内投稿に向け準備が進んでいる。2)園芸福祉に関する研究として緑地の持つ福祉的効用に関する調査を実施し、緑地の印象評価や心的ストレス軽減に関するデータ収集を行った。3)日本芝草学会の評議員として評議員会へ2回出席した。 |
| 社会貢献 | 0.15 | 1)校庭芝生のある小学校などの芝生管理について積極的に助言をする。2)園芸福祉の活動を推進するため、講演などを通し啓蒙・普及に努める。 | 0.10 | 1)芝生のある小学校向けに「芝生管理マニュアル」を作成し、関係者に配布した。また、芝に関する行政からの問い合わせに助言を行った。2)園芸福祉に関する講演1件、芝生に関するシンポジウムパネラー1件のほか、沖縄県の委員（専門家）を1件務めた。 |
| 管理運営 | 0.25 | 1)フィールド科学センターの施設園芸グループおよび広域グループの運営をサポートし、施設整備を推進および牧草管理の体制を整える。2)全学図書館運営委員、ESDワーキング委員などの委員会活動に取り組む。 | 0.34 | 1)広域グループの運営をサポートすると共に、新規雇用者に対し農業機械の操作・保守の指導にあたった。また、園芸ハウス内にあった廃棄物を撤去し、研究および教育用に整備し活用を始めた。2)農学部予算委員長、図書館運営委員、研究圃場運営委員を務め、ESDワーキング委員としてアンケート回収に努めた。 |
| 進路指導 | 0.05 | 4年次学生および3年次学生の進路指導・相談に応じ、就職内定が得られるよう努める。 | 0.01 | 適宜、学生の進路指導に応じたほか、企業1社の就職相談に応じた。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 平山琢二 | 所　属 | 農学部 | 職　名 | 助教 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.25 | ・年次指導教員として学生の指導を積極的に行う。<br>・担当科目（基礎フィールド実習、農業実践論、畜産周辺学）を担当（一部分担）し、農林情報および畜産に関する教育を行う。 | 0.25 | ・年次指導教員として学生の指導を積極的に行った。<br>・担当科目（基礎フィールド実習、農業実践論、畜産周辺学）を担当（一部分担）し、農林情報および畜産に関する教育を行った。 |
| 研究 | 0.25 | ・学会、研究集会等での発表、論文投稿を積極的に行う。<br>・科研費やその他の外部資金を獲得するよう積極的に申請・応募する。 | 0.25 | ・国際学会で1件の発表を行った。<br>・4件の論文投稿を行った（現在、2件がアクセプト、2件が対応中）。<br>・科研費を2期連続で獲得（基盤C） |
| 社会貢献 | 0.20 | ・関連企業との共同研究の成果を実製品に応用し、社会貢献を積極的に行う。<br>・研究成果を地域へ普及するための各種勉強会などで講演を積極的に行う。 | 0.20 | ・月1回、勉強会を開催し、地域の産業振興に貢献した。<br>・石垣島でのセミナーにて講演を行った。 |
| 管理運営 | 0.20 | ・センター運営を軸として、各種委員活動などを積極的に行う。<br>・農林情報分野の管理運営（年報、概要、HPなどの維持管理）を行う。 | 0.20 | ・センター運営を軸として、各種委員活動などを積極的に行った。<br>・農林情報分野の管理運営（年報、概要、HPなどの維持管理）を行った。 |
| 進路指導 | 0.10 | ・学生からの進路および就職の相談に積極的に門戸を開く。 | 0.10 | ・学生からの進路や就職などの相談に積極的に対応した。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **各教員**は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付 | ⇨ | **評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整 | ⇨ | **評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付 | ⇨ | **事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出 | ⇨ | **各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付 |

**（別紙１）** 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

## 平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

| 名　前 | 高嶋敦史 | 所　属 | 農学部　フィールドセンター | 職　名 | 助教 |
|---|---|---|---|---|---|

| 領域 | 業務ウェイト比（予定） | 平成24年度　年度目標設定 | 業務ウェイト比（実績） | 平成24年度　年度末自己点検結果 |
|---|---|---|---|---|
| 教育 | 0.30 | 担当する講義・実習科目の充実を図る。また，はじめて卒論生を受け持つため，研究計画の作成やデータの取得方法，およびとりまとめ方法に関する指導を適切に行う。 | 0.25 | 講義・実習は概ね例年どおりの内容で実施することができたが，レベルアップするには至らなかった。研究室の卒論生指導はサポート的な関わり方に終始したが，その範囲内では適切に指導ができたと考えている。また，他研究室の学生の与那フィールドにおけるデータ収集も数多くサポートした。 |
| 研究 | 0.30 | やんばる地域の亜熱帯性広葉樹林，および屋久島のヤクスギ林を中心に，伐採活動とその後の森林再生に関するデータ収集と解析を行う。やんばる地域においては，人工林の成長に関するデータ収集と解析も行う。研究成果は，学会発表や論文で公表する。 | 0.20 | やんばる地域，ヤクスギ林とも，データ収集は予定通り実施することができた。その結果，ヤクスギ林では研究テーマの解明につながる成果が得られつつあるが，やんばる地域ではさらなるデータ収集を重ねて解析を深める必要がある。学会発表は4件行い（3月の予定も含む），論文は2本投稿した。 |
| 社会貢献 | 0.15 | 与那フィールドで公開講座やワークショップを実施するとともに，研修の受け入れなども行い，やんばるの亜熱帯林の特徴を社会に認知してもらえるよう取り組む。 | 0.15 | 観光産業科学部と協力して，里山研究園を利用した公開講座とセミナーを実施した。また，演習林ではワークショップ（オープンフォレスト）を実施した。この一年は，一般や学生を対象としたイベントの実施が主になったが，県や村など行政機関との連携を図ることができればなお良かった。 |
| 管理運営 | 0.15 | 与那フィールドにおける研究・教育利用の推進に努める。その際，安全かつ円滑に利用していただけるよう，環境の整備に取り組む。また，職員が仕事に取り組みやすい職場づくりにも取り組む。 | 0.30 | 学内外からの利用には前向きに対応することができた。ただし，想定以上の時間を要したため，他領域の業務に影響が出てしまった。また，職場環境の管理においては労災を発生させてしまい，被災者をはじめ多くの方に迷惑をかけた。与那フィールドの業務全般の効率化も道半ばになっている。 |
| 進路指導 | 0.10 | 研究室に配属された学生や講義・実習で関わる学生に対し，就職情報の提示と就職活動の進め方について随時アドバイスする。 | 0.10 | 研究室に配属されている学生を中心に，進路相談に乗ってアドバイスを行った。 |
| | 0.00 | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。<br>・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。<br>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 |